

# 令和元年（平成31年）度事業報告

## 1. 概況

新しい令和の時代を迎えた昨年、新天皇が即位し、閉塞感が濃かった平成の時代に別れを告げ、国民の間では祝賀ムードが一気に高まりました。秋にはアジア初の開催となったラグビーワールドカップにおいて、世界も驚く日本チームの大活躍により、日本中が感動と歓喜の渦に包まれました。チームのスローガン「ONE TEAM（ワンチーム）」が流行語大賞にも選ばれ、スポーツの持つ素晴らしさを実感すると共に選手たちの活躍を日本中が称えました。労働力不足が中小企業の経営課題となるほど、“失われた20年”という言葉を目にするのがめっきり減り景況感もますますで推移し、3千万人を超える海外からの旅行者によるインバウンド景気により、地方経済も観光業を中心に明るい兆しが見えつつありました。消費税率の10%への引き上げによる個人消費の落ち込みも一時的で限定的とされていた矢先に、誰もが予想だにしなかった“新型コロナウイルス”の感染拡大により、社会経済の様相が一変してしまいました。今後どこまで、この影響が私たちの事業や社会生活に及ぶのか、予断を許しません。

引き続き、当会では“よき経営者をめざすものの団体”として、関係当局をはじめ税理士会等の各友誼団体及び近隣法人会との密接な連携を保ちつつ、「令和元年（平成31年）度 会長の重点施策」に則り、以下の方針の下、様々な事業・施策を展開してまいりました。

### 《単年度と中長期の取り組み》

昨年に引き続き、単年度として取り組む「令和元年（平成31年）度の事業・施策」と並行して、中長期的な課題に取り組む「特別委員会」をフル回転させて、スピーディに取り組む。

### 《令和元年（平成31）年度事業展開の基本方針》

- 本部・支部・部会で行ってきた従来の事業を見直し、費用対効果をよく検討しながら、それぞれ果たすべき役割に応じた事業を確実に実行する。
- 法人会の基幹組織を支部と位置づけ、支部事業における会員参加率の向上をめざし、“顔の見える組織”作りを確実にを行い、広く会員間の“絆”を深めると共に、支部単独ではできない予算規模の大きな事業については、地区単位での支部合同事業を積極的に展開し、法人会の地域への浸透を図る。新規会員獲得に繋がる事業を企画・実行する。
- 広報活動（情報伝達）  
広報誌、HP、メルマガ、FB等の特性を活かし、会員のみならず地域社会に対し、積極的に法人会をアピールするよう広報委員会を軸に全組織一丸となって取り組む。
- 他団体と差別化できる事業を推進する一方、協業が可能な分野については積極的に協力関係を築き事業展開を図る。

一昨年発足が決まった「ブロック会議体」がいよいよ稼働し始めました。支部の枠を超え、支部単独ではできない大きな事業に取り組むと共に、停滞気味であった会員増強活動にもブロック単位で取り組むこととしました。発足初年度ということもあり、まだまだ目に見える成果は出ておりませんが、次年度以降にその成果を期待したいと思います。このブロック会議体を生み出した“特別委員会”では、引き続き当会が抱える中長期の課題に取り組み、その一つである「会員資格」についても協議を重ね、一定の方向性を得ることができました。近い将来、他の検討課題と合わせて、皆様にお諮りしたいと考えております。また、他団体との共催事業や協賛事業にも積極的に取り組みました。“税を考える週間”における「記念講演会」は武蔵野青色申告会との共同開催となり、集客効果、費用対効果の点で狙いどおりの成果が得られました。各市の青年会議所（JC）とも将来にわたる良好な関係を構築するべく、事業の協賛を行ってまいりました。

本部事業においては、今年で61回目を数える伝統事業である「夏期経営者講座」においては、“近未来の日本の姿”について、第一部では「人口減少」をテーマに、作家でありジャーナリストでもある河合雅司氏による講演「未来の年表～人口減少日本で起きること～」、第二部では社会を大きく変えるであろう最新の技術動向を取り上げ、エバンジェリストである西脇資哲氏による講演「AI×IoT時代における新たなビジネスの姿とは？～全てのモノ、人がつながる新時代～」を開催しました。3年目を迎えた「税制実務研修」「経営実務研修」の両シリーズも全19テーマ、合わせて401名を超える方々にご参加いただき、日々の経営に役立つ実務知識を中心とした有益な情報提供に努めました。一方、各支部においては、地域の活性化をめざして企画された各種イベントに積極的に参加することにより、地域貢献と法人会の知名度向上に努めました。特に三鷹駅北口周辺で繰り広げられた公開空地と公道を使った社会実験事業「OPEN STREETs 武蔵野」には二日間にわたり、法人会ブースで行ったオリジナル缶バッジ、マイ箸作りに延べ890名の子供とその保護者が訪れ、大変喜ばれました。小金井地区で開催された「クリスマス歌声コンサート」は、市はもとより地域の関係団体を巻き込んだ事業として着実に育ち、今年も350名近い市民の皆様が来場し、大きな盛り上がりを見せました。会員同士の“絆”を深める会員交流事業も各支部で活発に行われました。三鷹地区においては「お茶会」と称する会員同士の交流会が複数の支部で行われ、懇親と新規会員の獲得に成果を上げました。部会においては、女性部会・青年部会が取り組んでいる「租税教育」が熱心に行われ、行政・学校関係者から高い評価を得ました。

突然、私達の社会を襲った“新型コロナウイルス”の感染拡大による影響は甚大であり、年度末に計画されていた各ブロックの「新入会員歓迎会」「会員交流事業」「研修会」「税に関する絵葉書コンクール表彰式典」などが全て中止となってしまいました。準備を進めてこられた役員の皆様方のご苦勞が報われず、残念な限りです。まだしばらくの間、“新型コロナウイルス”の影響が続くかと思われれます。新しい年度が思いもよらない形でスタートすることになりますが、今から70年前の1950年3月28日に誕生した当会の歴史を振り返りつつ、会員一丸となって私たちのこの会と地域社会を守るべく、引き続きご理解とご支援をいただけますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。